

# JSDA 会報



## 2004年・秋号

### CONTENTS

**特集** ..... 4-9  
**今年度JSDA重点テーマを追う!**  
**特別寄稿** ..... 2-3  
 ・早稲田大学 理工学部  
 教授 長谷見 雄二  
 ・株式会社 安井建築設計事務所  
 東京事務所所長 大村 鐵太郎

**NEWS** ..... 2-3  
**新理事一覧** ..... 10  
**組織図** ..... 11  
**新会員紹介** ..... 12  
**シリーズ**  
**火災安全について考える 第4回** 13  
 ・諏訪東京理科大学 教授 奈良 松範  
**ご紹介** ..... 14  
 ・板硝子協会  
**データ** ..... 15



防犯性能の高い建物部品  
JSDA ガイドライン



左上:9月14日に東京・丸の内にオープンした「丸の内オアゾ」  
 右上:9月16日に東京・丸の内にオープンした「丸の内マイプラザ」  
 左中:防犯性能の高い建物部品普及促進説明会の風景  
 右中:「防犯性能の高い建物部品JSDAガイドライン」の表紙  
 左下:重量シャッターの予察試験  
 ※丸の内地区再開発の写真2点は、日刊建設通信新聞社より提供いただきました。

# 防火設備にも ユニバーサルデザインを

早稲田大学理工学部  
建築学科 教授  
長谷見 雄二



本格的な高齢化を迎えて、一般建築物のバリアフリー化は、もう当たり前になってきている。10年前に導入されたハートビル法も多くの用途で義務化され、高齢者、身障者が社会を自由に行動するための基盤は次第に整備されつつあるが、ハートビル法そのものは、実は、高齢者、身障者の避難安全については何も規定していない。階段利用が難しい高齢者・身障者の施設内交通手段としてはエレベーターが代表的な解決策だが、災害時にはエレベーターは使えないとなると、自力避難は俄かに困難になる。いわゆる老健施設、グループホームなど、日常的な行動に不自由のある高齢者の生活施設も急増しているが、施設の計画手法そのものが発展途上で、避難安全対策など、法令上の位置づけを含めて明確化されていないのである。

このように、高齢者、身障者の存在を前提とした防災対策の確立は解決が待たれる重要な課題だが、こうした対策の必要が大きいと考えられる色々な施設を訪れて時々、感じさせられるのは、防災対策のパーツとして使われる設備・器具そのものの扱いにくさである。例えば、普段は壁に収納されている火報連動防火設備は、ノブが扉面に収まっているのを引

き出して開閉するが、ノブ自体が見え難く、建築関係者でなければそれと認識しにくい。それを引き出して開閉する、という動作は、視覚や指の運動能力が低下した高齢者や身障者には容易ではないだろう。防火戸そのものも、開こうとするとなかなか重い。車椅子に乗ってこういう扉を開こうにも、車椅子にぶつかったりするのである。大きな防火戸等に取り付けられる潜り戸など、框がついていると、車椅子に対しては障壁以外の何物でもない。ハートビル法対象施設であれば、少なくともこれらの問題を解決した製品が使われるべきだろう。いわゆるスクリーンシャッターなど、新しいタイプの防火設備が開発され、防火設備も多様化し始めている。車椅子も通過できるように工夫されているようだが、火事でスクリーンがさっと降りてきた時、車椅子利用者がそれを通過できると認識できるだろうか。

バリアフリー化と一見、直接の関係がなさそうな防火設備ではあるが、よく考えると、製品の設計からバリアフリー適格製品の認証、社会へのアピールまで、色々な研究課題がありそうである。

## NEWS

### 大沼専務理事が国土交通大臣表彰を受賞



平成16年7月12日、平成16年度国土交通大臣表彰（建設事業関係功労）が国土交通省10階共用大会議室で行われ、当協会の大沼喜明専務理事が国土交通大臣表彰を受賞した。

このたびの受賞は、多年にわたる国土交通行政の推進と建設事業に貢献したことによるものである。

大沼専務理事は、昭和41年建設省住宅局建築指導課に入省。計画局宅地部宅地開発課、住宅局住宅建設課、総理府近畿圏整備本部、国土庁地方振興局地方都市整備課、建設省監察官、衆議院建設委員会調査員等を歴任し、

平成元年、建設省大臣官房付で退職。この間、(財)日本建築センター、住宅・都市整備公団に出向。退官後、(社)日本膜構造協会、(財)住宅生産振興財団を経て、(社)日本内燃力発電設備協会理事、(社)日本シャッター・ドア協会専務理事の現職に就いている。

### 会員交流会を大阪と東京の2会場で開催

従来は賛助会員向けに開催していた懇話会を発展させ、全会員による相互交流と親睦、情報交換を行う「会員交流会」が、11月11日に大阪で、同18日に東京でそれぞれ開催される。

当日は、第二東京弁護士会の深沢直之弁護士を講師にお招きして、「最近の危機管理と事故に係る法的処置の問題について」(案)をテーマとした講演会を開催する予定となっている。

#### <大阪会場>

日時：11月11日(木) 13:30~16:30

場所：「ヒルトン大阪」(JR大阪駅より徒歩2分)

# セキュリティと 建物の設計

安井建築設計事務所  
東京事務所 所長  
大村 鐵太郎



建物の設計で配慮すべき様々な要素の一つに安全性がある。かつては安全性への設計は地震や台風や火災などへの対応が主であり、一般の建物においては基本的に建物に関する法的基準で設計され、それで十分であるとされていた。防犯への対応もあったが進入部のロックが中心で特に注意が払われなかった。

しかし、様相は変わってきた。その始まりはハイジャック行為であろう。これにより空港設計に新しくセキュリティチェックという条件が出現した。その後のテロ行為を中心とする犯罪は建物へのセキュリティに影響を与えてきたが、あの9.11はそのセキュリティへの取組み姿勢を根本的に変えるきっかけとなった。

都心の主要な建物のセキュリティチェックの厳しさはもう当たり前のこととなってきている。一般の建物ですらテロによる爆発や生化学的脅威にまで対応が必要となってきた。最近のテナントビルもこの対応の程度がセールスポイントとなりつつある。

セキュリティ設計は、進入の防止、その監視、進入した場

合の対処の仕方が基本となるが、これにテロ行為の対策として建物強度の強化や生化学的防御が加わった。進入監視には多くの装置が設計されますが高度になっているが、建物強度の強化や生化学的防御には新しい設計コンセプトが必要となってきている。例えば、建物崩壊を遅らせる構造設計がある。これは爆発などを被ったとき、避難時間を確保するため建物をいっきに崩壊させない設計手法である。あるいは、生物・化学的物質が建物の内外で散布されたときの空気の遮断などに配慮した空調システムの設計手法もある。

今後もセキュリティ設計はますます高度で複雑にならざるを得ない状況にあるが、多くの方が経験しているとおり建物利用者にとっては不便さと時には不快さをつくりだし、建物所有者（利用者も）により以上の経済的負担をかける。利便性や快適性や経済性も建物の設計には重要な要件である。この相反する条件をいかに満足させるかはわれわれ設計者の今後の主要な課題のひとつである。

大阪府大阪市北区梅田1-8-8

TEL : 06-6347-7111

## <東京会場>

日時：11月18日（木）13：30～16：30

場所：半蔵門会館

## 沖縄で初、防火シャッター・ドア 保守点検専門技術者講習会

協会主催で定期的に行っている「防火シャッター・ドア保守点検専門技術者」講習会は、第42回を数え、さる9月10日沖縄県宜野湾市で開催された。沖縄では初めての開催となり、受講者は54名であった。今年は3月26日に東京で行われたのに次ぐものだが、同保守点検専門技術者の資格者数は2,866名（前回時点）となった。今回の受講者の資格認定者は、10月7日開催の認定委員会によって決定される。

今後の講習会予定は、12月3日に宮城県仙台市、来年2月4日に群馬県高崎市での開催が決まっている。

## 「大阪府特定設備に係わる安全確保制度 検討委員会」にJSDAから出席

さる8月11日、大阪府中央区で「第一回 大阪府特定設備に係わる安全確保制度検討委員会」が開催され、JSDAからは岩出 政和氏（東洋シャッター）が委員として出席した。

特定設備とは「不特定多数の利用する施設で、使用において人身に影響を及ぼす事故の発生のおそれがある設備機器等」とし、防火シャッターもその対象となる予定だ。同委員会ではこれらの設備により発生した事故について、今後、届け出の義務を条例化する方向で検討している。

今後、対象となる設備の選定や届け出の対象とする事故の基準等、詳細を更に検討し、今年中に計5回の会議を開いて報告をとりまとめる。



# 今年度JSDA重点テーマを追う!

今号では、今年度事業計画のなかで特に重点的に取り組んでいる「防犯」「安全対策」「ドア事業」の3大テーマの現況と今後の方向性を追った。

## 防犯

### 「防犯性能の高い建物部品 普及促進説明会」が大阪と東京で開催される

当協会主催の「防犯性能の高い建物部品 普及促進説明会」が、7月1日に大阪・大阪金属問屋健康保険組合、同5日に東京・日本教育会館で開催された。

当協会は、ドアB種、窓シャッター、軽量シャッター、重量シャッター、シャッター用スイッチボックスの5製品について、防犯性能試験の申請窓口として同試験に係わる諸規定の整備、建物部品の開発、予察試験および本試験の実施、審査への協力等を行ってきたが、この4月1日、「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」（以下「官民合同会議」）より「防犯性能の高い建物部品目録」（以下「防犯目録」）が公表され、当協会からは、5製品432タイプの製品が登載された。



◀ 説明を行う石橋委員  
▼ 大阪会場の風景



また、今年度に入り、当協会では官民合同会議の事業を引き継ぎ、防犯性能の審査と評価を自主的に管理運営する「防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会」（委員長：工学院大学・吉田倬郎教授）を発足させ、当協会としての自主管理体制を整えた。今回の説明会を受けて、防犯目録に登載された製品の使用登録申請の受け付けが7月12日より開始された。

説明会は、大阪会場が32社72名、東京会場が32社60名が出席する中、パワーポイントによる説明が行われ、その資料の他に、当協会がまとめた「防犯性能の高い建物部品 JSDAガイドライン」「Q & A集」、5団体が制作した統一パンフレット「防犯性能の高い建物部品について」が全員に配付された。

冒頭、挨拶に立った大沼専務理事は「凶悪化する手口に対してより良い対策を立て、安心して使っていただける商品を世間に広めることで防犯に貢献していきたい」と述べた。続いて、当協会業務委員会・益子隆雄委員、同シャッター・ドア防犯対策委員会・石橋正幸委員、同自主管理委員会シャッター専門委員会・上野耕平委員より、1) 防犯性能の高い建物部品の概要説明、2) 試験細則の説明、3) 販売についての留意事項、4) 部品供給について、5) JSDA自主管理委員会、6) CPマークと自主評定マーク、7) 今後の試験申請要領と公表、8) 普及促進活動について等、8項目についての説明が行われた。

今後、防犯性の高いシャッター・ドア等の普及・販売を押し進めていく上で、今回の説明会は当協会会員ならびに参加企業の取り組みに、大きな弾みをつける開催になったといえそうだ。

なお、当日の説明会の具体的な項目と内容は以下のとおりである。

#### 1) 「防犯性能の高い建物部品の概要説明について」

昨今の侵入盗件数や侵入手口などの動向をはじめ、官民合同会議設立の目的や構成メンバーを紹介。さらに、防犯に配慮した建築企画・計画・設計の4つの基本原則（被害対象の強化・監視性の確保・接近の制御・領域性の強化）の他、防

犯性能の高い建物部品の対象となる建物部品について説明。

## 2) 「試験細則の説明」

防犯試験の内容について、警察庁が把握している侵入手口を再現する「人為的試験」を主体に、シャッター・サッシ・ガラス・ドア・鍵などに対する試験方法を紹介。

## 3) 「販売についての留意事項」

カタログへの記載について、「防犯シャッター」「5分防犯ドア」といった“防犯を保証する”表現は控えること。さらに、目録登録品は侵入を完全に防ぐものではないため、破壊行為による製品の破損が防犯性能の限度を超えるものであれば、瑕疵担保責任には該当しないことを説明。

## 4) 「部品供給について」

JSDA共通仕様の供給部品リストについて、供給会社名と担当窓口、受付開始時期等について説明。

## 5) 「JSDA自主管理委員会」

公正な防犯性能の審査を行い、性能ある防犯目録製品の供給を自主的に管理運営するという自主管理委員会の役割としくみの説明の他、同委員会のメンバーを紹介。

## 6) 「CPと自主評定マーク」

シャッター・ドア・スイッチボックスへの証紙の貼付位置、証紙代と試験申請手数料、証紙の発注システム、使用登録申請手数料について説明。

## 7) 「今後の申請要項と公表」

試験申請の手続きから合格品の自主管理委員会への登録までの流れと、申請書類への記入例を説明。

## 8) 「JSDAが取り組む普及促進活動」

5団体による普及促進活動として、パンフレットやポスターの制作をはじめ、警察庁・国土交通省・経済産業省・(財)全国防犯協会連合会への要請、ガイドラインを基本とした説明会の実施、各会員による啓蒙活動の実施状況を説明。

# 防犯

## 自主管理委員会による「侵入抵抗時間10分」をめざした防犯性能試験が行われる

千葉県柏市の科学警察研究所・火災実験棟にて、9月8～10日、防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会(以下「自主管理委員会」)による初の防犯性能試験が実施された。

今回の試験は、自主管理委員会において確認された「シャッター等の侵入抵抗性基準」および「シャッターの侵入抵抗性試験細則」に基づき、重量シャッターとドアB種について「侵入抵抗時間10分」の自主評定・運用に向けた予察試験を行った。また、今回新たに対象となったオーバーヘッドドアについて「侵入抵抗時間5分」の自主評定・運用に向けた準備を進めるための予察試験を実施した。

実施日の3日間に亘り、警察庁生活安全企画課・大塚祥央専門官をはじめ、官民合同会議の関係者が多数参加する中、初日の8日は軽量シャッター2体について「侵入抵抗時間5分」の本試験を実施。本体のスラットに発泡ウレタンを充填したアルミホロータイプと、ガイドレールが外部に露出した仕様の軽量シャッターは2体とも「侵入抵抗時間5分」をクリアしたことで、「防犯性の高い建物部品目録」に追加で登録

されることとなった。

続いて、スラット部を強化した重量シャッターについて「侵入抵抗時間10分」の予察試験をジャッキやバールを使って実施。結果はこじ開けに対して有効であることが確認され、今後の自主認定・運用に向けて幸先の良いスタートを切ることができた。

翌9日は、当協会では初となるオーバーヘッドドアについて、「侵入抵抗時間5分」に向けた試験基準および試験方法の確認が予察試験のかたちで行われた。

最終日の10日には、「侵入抵抗時間10分」に向けた鋼製軽量ドアと鋼製重量ドアについての予察試験を実施。「錠のこじ破りと受座の破壊」「扉の面材破壊および戸板破り」の他に、「侵入抵抗時間5分」の試験基準にはない「吊り金物の破壊」試験が初めて行われた。

今回の予察試験の実施をふまえ、今後、協会の自主管理委員会では「侵入抵抗時間10分」に向けた試験細則をさらに詳しく検討し、自主評定・運用に向けた動きが加速していくことになる。



▲軽量シャッターの本試験



▲オーバーヘッドドアの予察試験



▲鋼製重量ドアの予察試験

# 「JSDA 総合安全対策研究会」 (略称：RAS) 発足 !! (RAS:Risk Assessment Study)



協会の今年度の重点施策にも掲げられ、キーワードにもなっている「安全」について、この度「JSDA総合安全対策研究会」が発足した。研究会の名称が表しているように、あえてJSDAと冠し、協会をあげての取り組みであると位置づけ、「総合」として協会のすべての製品やシステムを含むこと、そして「安全対策」という、現在、社会的にも最も注目されている課題を「研究」するということである。発足以来、二回の会合が開かれたが、その主旨、課題、メンバーなどを紹介する。

### <研究会発足会議（6月16日）・岩部会長挨拶より>

今年度、防災、防犯と並んで「安全」は大きな課題であり重点項目に掲げた。シャッターの保守点検はまだ進んでいないが、当然、経年劣化もあり「安全」を確保するための品質保持期限の設定など自動車の整備手帳に類したものが必要と考える。特殊建築物の定期調査制度では運用強化されたが、さらに法制化までもっていくには、既存製品も含め業界としてデータの整備が必要だ。また、ドアのブランド表示の実施は品質や施工責任と表裏を成すものであり、それらを含めすべての製品やシステムに「安全」の観点からのガイドラインや基準が必要になっている。BtoBではなくBtoCの観点から総合的に検討してもらいたい。

### I.研究会の目的

JSDAが事業とする全ての製品に関し、今日の社会の価値

観に基づきリスクの評価を行い安全目標を規定し、適切な対策等について運営委員会に提言することを目的とする。

### II.活動方針

研究対象となる製品及び課題について、基本的な考え方を明示し、関連する基準委員会並びに常設委員会と協同して諸規定・基準等の見直しと立案、普及促進の為の方策の検討、周知啓蒙活動の手法の策定を行い、順次検討の終了したものをガイドラインとして提言する。

### III.検討課題

- ① 自動回転ドア対策は、「自動回転ドアの事故防止対策に関する検討会」のガイドラインによる。
- ② 障害物感知装置及び危害防止装置の運用基準と普及対策を行う。
- ③ 定期点検と品質保証としては、基準等の精査と普及対策を行う。
- ④ 自主管理事業としては、リスク評価に基づく精査を行う。
- ⑤ 製品別対策としては、以下の指針の策定を行う。
  - シャッター、オーバードア等の降下時の事故防止対策
  - ヒューズ装置付き防火設備
  - 防犯建物部品
  - その他、安全対策の必要な製品等
- ⑥ 既設置製品に係わる対策としては、指針策定を行う。

#### IV.研究会委員

担当理事（座長） 後藤 忠義（日本シャッター製作所）  
委員長 岡田 敏夫（運営委員会：東洋シャッター）  
委員 白井 正隆（基準委員会：三和シャッター工業）  
植竹 徹（基準委員会：文化シャッター）  
上野 耕平（自主管理委員会：三和シャッター工業）  
高山 孝雄（業務委員会：小俣シャッター工業）  
小室 昭栄（メンテナンス委員会：三和シャッター工業）  
小林 利明（品質委員会：トステム鈴木シャッター）  
築山 清一（技術委員会：東洋シャッター）  
事務局 水島 昭治郎（JSDA）

#### V.顧問（研究会に毎回出席）

諏訪東京理科大学 教授 奈良 松範  
（リスクマネジメントの専門家として客観的な示唆をいただく）

#### VI.活動期間

一年間の活動とし、安全のガイドラインを示すことにより、  
会員及び関係委員の安全意識の向上を図る。

#### VII.これまでの開催

- ・ 第一回：平成16年6月16日
- ・ 第二回：平成16年7月21日

## 安全対策

# 防火・防煙シャッターには、 危害防止機構の設置を徹底させましょう！

JSDAでは昨年に引き続き、今年も「危害防止装置設置に関するアンケート」を実施しました。今年は、調査エリアを全国に拡げ、サンプル数：408現場、1,753連と、さらに実態に即した調査となりました。

しかし、調査結果によると、危害防止装置の設置率は43.9%と、まだまだ完全実施の状態とはほど遠く、とくに、相手先が危害防止装置について認知しているかどうかは、半数以下の47.7%という実態で、まだまだ、危害防止装置設置に関する認知・啓蒙活動が促進されていないことが判明しました。

危害防止装置の設置は、平成10年埼玉県の小学校で発生した「非火災報」（火災以外の原因で作動）によるシャッターの降下事故がきっかけとなったものですが、平成13年度版の「建築工事標準仕様書」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修・（社）公共建築協会発行）より、防火シャッターの形式及び機構の項目に保護装置として危害防止機構の設置が記載され、平成16年度版にも引き続き記載されています。

公共、民間に関わらず、安全性への対応として全ての建築工事に適用されることが望ましく、JSDAとしては、さらなる普及・促進として別掲のカタログを作成し、会員各社にご案内しております。



# 「自動回転ドア事故防止対策委員会」 JSDAとしての取組み

3月26日に六本木ヒルズで起きた自動回転ドアでの挟まれ事故を受け、JSDAでは協会内に「自動回転ドア事故防止対策委員会」を時限委員会として設けました。同委員会では国の事故対策検討委員会が検討しているガイドライン及びマニュアルへ（6月29日発表）の対応を検討しました。今後、JIS化へ向け自動ドア協会主催の「大型自動回転ドア安全規格JIS原案作成委員会」へ協会として参画します。

## 1. 委員会設置の目的

経済産業省・国土交通省主催による「自動回転ドア事故防止対策検討会」に対し、当協会として対応することを目的に時限委員会として設置、運営委員会における特別委員会扱いとする。

## 2. 推進方法

全国自動ドア協会内に設置された「自動回転ドア安全ガイドライン研究会」に当協会からも具体的な対応案作成などに参画し、同委員会の報告を受けて当協会としての確認及び検討を行う。

## 3. 活動内容

国の事故対策検討会は4月8日、5月7日、6月8日、29日の計4回開催され、ガイドラインがまとめられた。

その間、全国自動ドア協会では「安全ガイドライン研究会」を4月23日から6月24日までに計9回開催し、当協会からもナブコシステム（株）、寺岡オートドア（株）と三和シャッター工業（株）が審議に出席し、ガイドラインとマニュアル作成に参画した。

当協会は、国の検討会、業界の研究会の審議状況を踏まえ4月9日、4月27日、5月25日、6月25日の計4回の委員会を開催し、ガイドライン及びマニュアル作成への対応と調整を行った。

## 4. ガイドライン

6月29日に国土交通省及び経済産業省から自動回転ドアの事故防止に関するガイドラインが発表された。

### ＜ガイドラインのポイント＞

- (1) 子供連れ、高齢者、障害者等の利用に配慮して、他形式のドアを併設すること。
- (2) 挟まれ防止のため制動距離の制限、防御柵の設置など多重の安全策を確保すること。
- (3) 衝突防止のためドアの最大回転速度（ドアの外周部で65cm/秒）を制限すること等。

### ＜自動回転ドアの事故防止策に関するガイドラインの概要＞

- (1) 基本的な考え方等
  - ①大型の自動回転ドア（直径3m超）に適用する。
  - ②死亡事故や重大事故を生じさせず、他の事故も可能な限り頻度を低減することを目標として、多重安全の考え方にに基づき、関係主体ごとの対策を定めている。
- (2) 建築設計者・発注者における対策
  - ①子供連れ、高齢者、障害者等の利用に配慮し、自動スライドドア等の他形式のドアを併設するとともに、高齢者、障害者等については併設ドアに誘導すること。
  - ②高齢者、障害者等が利用する際に低速運転（ドア外周部の最大回転速度が35cm/秒以下）を行うとともに、案内・介助要員を配置した場合には、高齢者、障害者等が自ら通行するドアを選択できる等。
- (3) 製造・供給・施工者における対策
  - ①挟まれ対策として、ドア先端等に人体への衝撃を十分軽減できる緩衝材を設け、これに接触した場合にドアに挟まれる前に停止する等の措置を行うとともに、防御柵の設置など多重の安全策を講じること。
  - ②衝撃対策として、ドア外周部の最大回転速度を65cm/秒以下とするとともに、ドアの進行方向を検知するセンサーを設置するなどの安全策を講じること。
  - ③巻き込み対策として、手・かかとが入らないよう安全間隔を確保するとともに、ドアの進行方向を照射するセンサーを設置するなどの安全策を講じること等。
- (4) 管理者における対策
  - ①マニュアル等に基づき運行管理等を適切に行うとともに、ドアの安全機能等を変更する場合には十分な安全確認を行うこと。
  - ②不特定多数が利用する建物では、ドアの状況を監視し、異常な状況には適切な要員による速やかな対応が可能

となるよう措置すること。

③利用者に対し、安全運行に関する注意喚起、情報提供を行うこと等。

(5) 点検・整備者における対策

定期的に点検・整備等を実施し、その結果を管理者に報告すること。

ガイドライン詳細については

<http://www.meti.go.jp/press/0005375/index.html>

## 5. 今後の活動

- (1) 当協会に設置した「自動回転ドア事故防止対策委員会」は、ガイドライン及び安全対策マニュアルの発行をもって一時休止とする。
- (2) 今後、全国自動ドア協会が中心となり、経済産業省の協力を得て、年内のJIS制定を目指しており、当協会としてもJIS化の状況等を把握していく。

## ドア事業

# 動き出したドア事業活性化対策と推進体制 ／ドアPTの進捗状況！

【ドアPT＝ドア事業総合プロデュース委員会（東田 誠之委員長）】

### ● アンケートを実施

ドアPTでは、8月1日～8月31日、会員のうちドアを扱う118社に対しアンケートを実施した。回答数は86社で、回収率72.9%と多数の企業から回答を得た。質問は全17項目、内容的には①事業形態、②経営状況、③環境変化、④協会への要望等となっている。現在、集計・分析中で、結果は会員に後日発表される。

### ● ドアの統計データを公表

ドアについての統計はこれまで公表されていなかったが、ドアPTでは、ドア製品の普及、市場確立の意味でも生産量の推移等、指標となるデータを一般公開すべきとの観点から、JSDA会報等を通じて公表することにした。

公表にあたっては、JSDAでの会員統計では鋼製重量ドアに限られるため、併せて、日本鋼製軽量ドア協会のご協力を得て、鋼製軽量ドアの統計も公表することになった。今号の会報から掲載をスタートさせている（P.15）。

ちなみに、統計の対象企業は次のとおり。

<JSDA>

エコン、エコー産業、鹿島産業、協立サッシ、キョーフ、コクサイ、三和シャッター工業、大東サッシ工業所、大電鋼機、田中サッシ工業、テクノ・ナミケン、手島製作所、鐵

矢工業、東洋シャッター、中田建材、兵庫機工、文化シャッター、三加茂建鋼、輸送機工業、神村シャッター、東鋼シャッター、東工シャッター、文明シャッター、ルーテス、吉田サッシ（計25社）

<日本鋼製軽量ドア協議会>

コスモ近畿、鋼鉄建材、三和シャッター工業、YKKAP、日本フネン、文化シャッター、輸送機工業（計7社）

### ● ドア技術基準の策定

防火・防煙ドアの技術基準、施工基準、工事検査基準、点検基準は関連委員会との調整を経て、本年9月末頃には結果が報告される。

防犯性能の高いドアに関する技術基準は「ドアの侵入抵抗性基準（案）」及び「ドアの侵入抵抗性試験に関する細則（案）」を作成し、警視庁、警察庁と調整。今後、同基準及び同細則に関するJSDA自主評価のためのものを策定する。

9月10日には、科学警察研究所にて侵入抵抗10分のドアの自主認定・運用に向けて予察試験が実施された。

### ● ブランドラベルの貼付

鋼製重量ドアの信頼性を高めるためのブランドラベル貼付は、ドア幹事会、ドア分科会等で検討され、運用方法など、実施の方向で取り組んでいる。

# 副会長に東田氏、 新理事に牛頭氏、手島氏が就任

東京・品川プリンスホテルにおいて、5月14日、平成16年度定時総会及び理事会が行われ、副会長に田中サッシュ工業株式会社の東田誠之社長、理事に協立サッシ株式会社の牛頭憲治社長、株式会社手島製作所の手島康博社長がそれぞれ新たに就任した。

## ■平成16年度 役員（敬称略）

会 長	岩部 金吾	文化シャッター(株)	代表取締役会長
副 会 長	高山 俊隆	三和シャッター工業(株)	代表取締役社長
副 会 長	東田 誠之	田中サッシュ工業(株)	代表取締役社長
専務理事	大沼 喜明	(社)日本シャッター・ドア協会	
理 事	後藤 忠義	(株)日本シャッター製作所	代表取締役社長
理 事	小俣 茂	小俣シャッター工業(株)	代表取締役会長
理 事	藤田 和育	東洋シャッター(株)	代表取締役社長
理 事	岡 陽一	東鋼シャッター(株)	代表取締役社長
理 事	梶山 博俊	大和シャッター(株)	代表取締役社長
理 事	神村 鉄雄	神村シャッター(株)	代表取締役社長
理 事	川村 雄蔵	(株)文明シャッター	代表取締役社長
理 事	黒川 利之	(社)日本火災報知機工業会	専務理事
理 事	牛頭 憲治	協立サッシ(株)	代表取締役社長
理 事	佐々木 知也	東工シャッター(株)	代表取締役社長
理 事	白岩 二郎	トステム鈴木シャッター(株)	代表取締役社長
理 事	手島 康博	(株)手島製作所	代表取締役社長
理 事	森田 豊二郎	ダイワ(株)	代表取締役社長
理 事	吉田 伸郎	工学院大学工学部	教授
監 事	佐土原 健一	金剛産業(株)	代表取締役会長
監 事	後藤 隆弘	(株)日本建築センター	常任監査役

## 〈新副会長・新理事〉



副会長 東田 誠之  
田中サッシュ工業(株)  
代表取締役社長

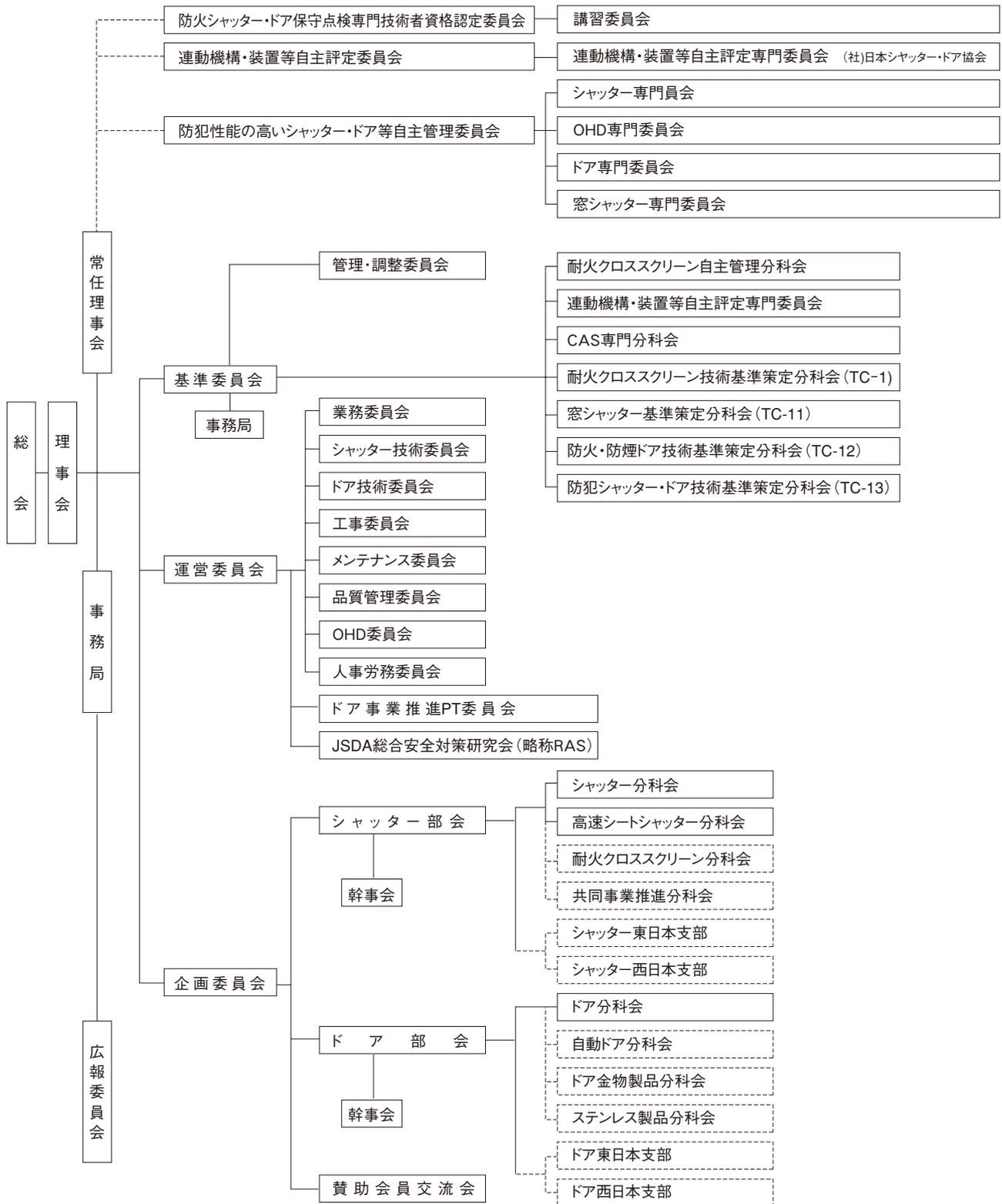


理事 牛頭 憲治  
協立サッシ(株)  
代表取締役社長



理事 手島 康博  
(株)手島製作所  
代表取締役社長

# 平成16年度 運営組織体制図 (JSDA)



▼特別・合同委員会等一覧表

名称	関係団体等
防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議	警察庁、国土交通省、経済産業省、日本シャッター・ドア協会、日本サッシ協会、全国防犯協会連合会、ベターリビング、板硝子協会、日本ロック工業会ほか
官民合同シャッター・ドア・サッシ検討委員会	日本サッシ協会、日本鋼製軽量ドア協議会
建設専門業高度化対策委員会	建設産業専門団体連合会
連動機構・装置等自主評定委員会	日本火災報知機工業会、日本防排煙工業会
CAS合同委員会	日本サッシ協会
窓シャッター自主管理合同委員会	日本サッシ協会
防火シャッター合同委員会	日本火災報知機工業会

# 会員数が、182社に！

## ▼会員数の推移

会員種別	H13年(2001年) 5.31現在	H14年(2002年) 3.12現在	H15年(2003年) 9.16現在	H16年(2004年) 9.14現在
第一種会員	13	13	13	17
第二種会員	25	36	61	87
準会員	14	20	31	31
賛助会員	34	44	47	47
合計	86	113	152	182

## 新会員紹介

今年度に入って6社が入会され、9月14日時点で会員数が182社となりました。

また、5月より田中サッシュ工業(株)、協立サッシ(株)、(株)手島製作所が、第二種会員から第一種会員に種別変更となりました。

### オリент産業株式会社 (第二種会員)

代表取締役 山路 信毅  
本 社 福岡県福岡市  
設 立 昭和23年11月21日  
事 業 内 容 ステンレス製建具と自動ドアの製造、販売、  
施工  
(入会：平成16年5月理事会)

### ソムフィ株式会社 (賛助会員)

代表取締役 上野 隆  
本 社 神奈川県横浜市  
設 立 昭和60年1月7日  
事 業 内 容 シャッター、オーニング、スクリーン等の  
電動機器の販売  
(入会：平成16年5月理事会)

### 株式会社イエムラ (第二種会員)

代表取締役 家村 憲彦  
本 社 宮城県名取市  
設 立 平成6年7月  
事 業 内 容 ステンレスサッシの製造、販売、施工  
(入会：平成16年5月理事会)

### 北陸東工シャッター株式会社 (第二種会員)

代表取締役 佐々木 伸  
本 社 福井県鯖江市  
設 立 平成15年12月21日  
事 業 内 容 シャッター、ドア、防火設備の製造、販売、  
施工  
(入会：平成16年5月理事会)

### 株式会社西日本メタル工業 (第二種会員)

代表取締役 松尾 利康  
本 社 長崎県長崎市  
設 立 昭和62年11月1日  
事 業 内 容 船舶用防火扉の臓装用金物  
建築用防火扉の建築金物  
(入会：平成16年6月常任理事会)

### 日本フネン株式会社 (第一種会員)

代表取締役 久米 徳男  
本 社 徳島県麻植郡  
設 立 昭和49年1月  
事 業 内 容 防火ドア、鋼製ドアの製造、販売、施工  
各種不燃建材の製造、販売、施工  
(入会：平成16年9月理事会)

## ▼会員の登録変更

住所変更 文化シャッター株式会社 (新) 東京都文京区西片1-17-3  
電話：03-5844-7200 (代) FAX：03-5844-7201



シリーズ：第4回

# 製品に要求される 新しい価値

—Corporate Social Responsibility—



諏訪東京理科大学  
教授 奈良 松範

連載も最終回となりましたので、業界としての今後の方向性について私見を述べさせていただきます。近年、製品に対するライフ・パフォーマンス（Life Performance）を考えることが重要になっています。ライフパフォーマンス（以下、LPと略します）とは、製品のライフサイクルにわたってデザインされた使いやすさ、耐久性、コスト、安全性、および環境配慮などについての総合的な性能の良さです。製品の寿命（ライフサイクル）のすべての段階（ライフステージ）において必要とされる性能が一定レベル以上の基準を超えて満足されていることを要求します。製品のライフタイムにわたって、所期の性能が発揮できるように配慮された成果物がLPです。例えば、グリーン購入法は、ある一定レベル以上の環境パフォーマンスを持つ製品だけを購入することを定めた法律です。ところで、リスクとパフォーマンスは表裏一体です。また、前者はパッシブ（受け身）、後者はアクティブ（積極的）な戦略でもあります。いずれにしても、リスク評価なしにパフォーマンスを達成することはできません。リスクマネジメントはLPを向上させるためのツールであり、リスクとパフォーマンスは製品の将来を見るための両眼です。本文では、社会が要求するLPを提供するために不可欠な要素の一つとして、メンテナンス（使用段階の評価）にかかるリスクの取扱い方についてお話しします。

製品は使用段階の期間が最も長く、また購買者から最も厳しく評価される期間でもあります。製品が使用されれば、必ず不具合や事故などの発生確率が存在します。この使用段階におけるリスクをメーカーが直接コントロールすることはできません。問題が発生してから、初めて対応することになるわけです。問題は、直接コントロールできないリスクをどのようにマネジメントするかということがポイントとなります。なお、すでに述べたように、100%安全なシステム（製品）はあり得ません、すべてのシステムに必ずリスクは存在しま

す。したがって、リスクを最小化することだけが取り得る可能な対策となります。リスク対策には2つのフェーズがあります。1つは、予測されるリスクが発生した場合の被害が最小となるように、製品デザインの段階で考慮することです。もう1つは、適切な維持管理によりリスクの発生確率を減少させることです。勿論、デザイン段階でリスク評価を行い、リスク対策を考案すること、さらにイーザーメンテナンスおよびアラームシステムの活用により、使用段階におけるリスク低減に努めることの両方が不可欠です。なお、維持管理にも使用者による場合と供給者（メーカー）による場合がありますが、ここでは供給者による維持管理についてのみ考えます。

良いメンテナンスの基本は、事故やクレーム発生の兆候を発見しやすいシステムとしておくことで、リスクメーカー等の活用は効果的です。また、リスクが顕在化した場合の対応もポイントです。対応の仕方によっては、事故の責任だけでなく、社会的な責任の追求を受けることになります。ここで、対応の評価を左右するのは内部および外部に対する情報公開です。因みに、情報公開による被害の低減効果のシミュレーション結果を下表に示します。情報量を1単位増やすことにより被害は38%低減すると予想されます。

▼表1 情報公開による理解度の差（社会的非難の軽減）

	情報公開量	相手の理解度	被害低減率
ケースA	1	0.382	—
ケースB	2	0.618	38%

次のポイントは、同様なリスクが顕在化しないように対策を立てることですが、リスク顕在化の原因究明が不十分であれば、再発を免れません。このような場面では、前回説明したリスク評価手法の感度分析が有効です。

さて結論に移りましょう。LPを支配するメンテナンス段階のリスクマネジメントの重要性は、すべての製品あるいは業界において共通です。シャッター・ドアに要求される機能は、居住空間を分割し、そこを通過させることですが、その機能は安全かつ快適に満足されなければなりません。そのためにはメーカー自身が設計、使用、維持管理、および改良の健全なループを維持することが必要です。実は、設計時に想定した維持管理がなされていない場合に事故が発生しています。従来、所期の機能が発揮できるような環境が確保されていることをチェックする自前のシステムが脆弱だったように思われます。今後、メーカーとしての維持管理責任もスコープに入れ、戦略を練り直す必要があるのではないでしょうか。

以上、十分に語りきれなかった部分もあり、読者の皆さんにとっては消化不良の感が否めないと思います。ご意見等があれば、是非お知らせください。

わが国の板ガラス工業は、めざましい技術の進歩とともに製品は多様化し、建築・自動車をはじめ生活のあらゆる分野に板ガラスを供給し、現代社会とは切り離して考えることのできない存在となっています。その一方で、戸建住宅への侵入盗の被害が増加しており、侵入手口の約7割が窓ガラスを割っての侵入となっています。

そこで、板ガラスの安全性の確保や環境問題に取り組み、「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」のメンバーとして防犯ガラスの普及に注力されている板硝子協会を訪ね、西村浩調査役にお話を伺いました。



▲3月に開催されたガラスシンポジウムの様子

### ●貴協会の設立の背景を教えてください。

板ガラスの製造には多額の設備投資がかかることから、世界的に寡占産業であり、国内メーカーも旭硝子（株）、日本板硝子（株）、セントラル硝子（株）の3社と極めて少ないことが特徴となっています。こうした中、1947年9月1日、日本の板ガラス3メーカーの団体として、統計や情報収集をはじめ、各種調査研究や規格基準の整備、ならびに機能ガラスの需要拡大と、普及促進のためのPRなど、快適で豊かな住環境づくりを積極的に推し進めることを目的として、板硝子協会が設立されました。

さらに、板ガラスの団体として、自動車業界や建築業界等の関連団体とのコミュニケーションをはかり、連携を一層深めることで業界全体を活性化させ、新しい時代のニーズに応えることを使命としています。

### ●主な活動状況について教えてください。

現在の主な活動の一つは『機能ガラスの普及・促進』です。機能ガラスとは、一般住宅やビル等の建築物の省エネ化というニーズに適合した「複層ガラス」、自然災害や傷害事故を未然に防止し安全を確保する「安全ガラス」、防犯性能が期待できる「防犯ガラス」等の板ガラスを指します。

その機能ガラスの普及拡大を積極的に行うため、年に1度、全国で板ガラスフォーラムやガラスシンポジウムを開催したり、パンフレット等の印刷物や刊行物、ホームページを通して、調査や研究の成果を発表しています。また、1993年には機能ガラス普及推進協議会を設立して、遅れをとっている欧米諸国に追いつくべく、板ガラス業界全体で取り組んでいます。また、関係官庁や機関等に対しても様々な協力や意見具申を行い、補助制度や法制化の申請を行っているところです。

さらに、日本工業規格（JIS）や国際規格（ISO）、国内保安基準（自動車）、各種建築工事標準仕様書（JASS等）の制定や改定作業にも参加しています。もともと日本工業規格（JIS）については、当協会が原案作成団体として携わってきた経緯があり整備も整っていますが、残念ながら板ガラス分野において国際規格の設備はほとんどできておりません。しかし、国際会議にも人員を派遣するなど、積極的に活動を展開しています。

### ●現在の重点テーマを教えてください。

今年の夏は日本でも記録的猛暑に見舞われたように、世界中で地球温暖化が進んでいます。世界の各地で温暖化防止や環境保全を目的とした様々な取り組みが行われていますが、当協会でも環境に配慮した技術や製品の普及は最大の課題です。

政府の公約となっているCO<sub>2</sub>排出量削減の方策として、Low-E複層ガラス（断熱性と保温性に優れた特殊金属膜をコーティングしたもの）の採用は有効な手段と考えられています。家全体の3分の1を占めるといわれている窓。言い換えれば、断熱材を使用していない部分が3分の1もあるということになり、夏は熱い空気

を遮断し、冬は暖かい空気を外に逃がさないようにすれば、冷暖房効果は大幅に改善できるわけです。当協会で行ったシミュレーションでは、国内すべての住宅にLow-Eガラスを採用した場合、CO<sub>2</sub>換算で年間約1,700万トンのCO<sub>2</sub>を削減できることが試算の結果として分かっています。CO<sub>2</sub>排出量の削減は、地球規模で取り組むべき大きな課題です。

また本年4月、「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」によって「防犯性能の高い建物部品」として公表された防犯ガラスの普及を活性化させているところです。戸建て住宅への侵入方法で最も多いと言われているガラス破りに対応すべく、「貫通しにくいガラス」である防犯ガラスをお薦めしています。一般的に使われている単板のフロートガラスは数十秒で割られてしまい、防犯性能があると思われがちな網入りガラスでも、実際は数十秒で割られほとんど無防備なのが現状です。防犯ガラスはヒビ割れますが、間に特殊プラスチックフィルムをはさんでいるため侵入に必要な穴を開けることは非常に困難なのです。

現在、複層ガラスは着実に普及率を伸ばし、新築の戸建て住宅の4分の3には使用されるようになりましたが、マンションやビル関係は発展途上の段階です。今後も引き続き普及・啓蒙活動は続ける必要があることを痛感しています。

### ●今後の方向性（目標）について教えてください

環境問題への対応をますます重要視していくことが目標です。また、地球温暖化防止に加え、産業廃棄物最終処分量の削減をと叫ばれている今日では、業界としてリサイクル活動を積極的に検討、推進していく必要があると考えています。

建築廃材や流通廃材の板ガラス廃材（カレットと呼ぶ）の発生量は、建築廃材が約6万トン、流通廃材が約6万トン、自動車廃材が約14万トンとなっており、いかにリサイクル率を上げていくか、さらには解体建築物の増加、産廃処分場の限界状況などを見ても、解体現場からの回収システムの構築など、課題は山積みとなっています。これからのリサイクルの考え方としては、材料の特性ごとに、いかに環境負荷を増やさないリサイクルにするかがポイントとなりそうです。

環境先進国と言われるドイツをはじめ、欧州各国におけるリサイクルの取り組みを視察し、情報交換等の交流を行うことで、今後の日本の取り組みの参考にするとともに、業界が直面している課題をあらゆる業界が認識・共有化し、解決への糸口を見出すことができると考えています。

### ●ありがとうございました。

#### ●概要

会長 中村 禎良 専務理事 池貝 晃一  
所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1（新国際ビル2F）  
TEL:03-3212-8631 / FAX:03-3216-3726  
URL: <http://www.itakyo.or.jp>

今回よりドアの統計データを掲載します。

## シャッター

### ■過去1年間推移

(㎡、前年比・電動化率%)

	H15.9月	10月	11月	12月	H16.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
重量	128,608	144,576	109,699	106,747	104,552	100,568	107,412	102,172	101,269	126,286	125,627	122,519
前年比	15.1	44.3	14.9	14.5	15.3	-1.0	-3.5	1.9	8.6	22.0	3.8	13.3
軽量	265,412	290,146	252,889	264,377	187,959	213,434	268,579	271,077	236,705	273,667	274,433	240,777
前年比	0.8	-15.9	-14.5	0.5	-0.6	1.4	13.8	2.5	-11.1	3.4	1.2	5.0
電動化率	23.5	23.8	25.4	25.3	25.4	24.9	20.3	23.7	24.3	24.8	24.7	24.2
グリル	8,206	8,827	8,299	8,489	8,261	8,040	9,360	7,665	6,831	8,784	10,483	7,475
前年比	5.0	-8.7	0	-4.9	15.5	-1.1	20.1	4.3	-0.9	9.8	40.4	0.7
OHD	29,806	27,138	27,069	25,709	20,862	24,430	22,653	18,121	17,838	23,014	24,361	29,129
前年比	7.3	-20.3	-9.7	-1.2	4.4	5.5	-3.6	5.3	-5.7	4.7	-8.8	24.0
合計	432,032	470,687	397,956	405,322	321,634	346,472	408,004	399,035	362,643	431,751	434,904	399,900
前年比	5.2	-3.7	-7.4	3.6	4.8	0.9	18.8	2.5	-5.9	8.5	2.0	8.5

### ■出荷数量推移(年度)

	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
重量	2,001,243	1,936,939	1,676,527	1,524,206	1,707,897	1,737,110	1,775,359	1,574,810	1,286,780	1,492,832	1,097,308	1,208,205	1,328,258
前年比	1.7	-3.2	-13.4	-9.1	12.1	1.7	2.2	-11.3	-18.3	16.0	-26.5	10.1	9.9
軽量	6,019,965	5,288,063	4,843,331	4,677,685	4,544,678	4,730,120	4,195,575	3,896,089	3,732,420	3,487,158	3,333,097	3,190,771	3,038,800
前年比	6.8	-12.2	-8.4	-3.4	-2.8	4.1	-11.3	-7.1	-4.2	-6.6	-4.4	-4.3	-4.8
グリル	147,597	134,198	118,814	103,601	108,744	114,051	111,020	103,457	108,042	114,744	103,625	101,043	96,616
前年比	-9.0	-9.1	-11.5	-12.8	5.0	4.9	-2.7	-6.8	4.4	6.2	-9.7	-2.5	-4.4
OHD	482,527	462,639	430,393	383,865	417,438	464,464	435,581	368,259	328,943	343,957	303,293	299,460	285,952
前年比	1.5	-4.1	-7.0	-10.8	8.7	11.3	-6.2	-15.5	-10.7	4.6	-11.8	-1.3	-4.5
合計	8,651,332	7,821,839	7,069,065	6,689,357	6,778,757	7,045,745	6,517,535	5,942,615	5,456,185	5,438,691	4,837,323	4,799,479	4,749,626
前年比	5.0	-9.6	-9.6	-5.4	1.3	3.9	-7.5	-8.8	-8.2	-0.3	-11.1	-0.8	-1.0

## ドア

### ■過去1年間推移

(枚、前年比%)

	H15.9月	10月	11月	12月	H16.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
鋼製重量ドア	51,268	54,404	58,844	56,045	55,046	58,065	60,585	41,081	45,812	46,543	41,906	45,822
前年比	—	—	—	—	—	—	—	-15.7	5.2	0.6	-13.7	-5.9
鋼製軽量ドア	73,189	77,827	77,453	98,533	88,070	96,325	72,513	54,639	52,588	67,606	70,716	65,338
前年比	—	—	—	—	—	—	—	-1.1	-6.0	5.0	0.9	1.4

### ■出荷数量推移(年度)

(枚)

	H15		
	上期	下期	年間
鋼製重量ドア	287,039	342,989	630,028
鋼製軽量ドア	383,329	510,721	894,050

注)

- ・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。
- ・「鋼製軽量ドア」は、日本鋼製軽量ドア協議会の統計によります。
- ・「鋼製重量ドア」は、ガスチャンパー、点検口を含みます。

VEIRTICO

# 電動横引きシャッター「ベルティコ」新発売

## 【特長】

- ・上部レールの収納高さはわずか 51mm
- ・コーナー部の曲がり半径はわずか 130mm
- ・回転ブラシによる下部レールの掃除機能を装備
- ・障害物や下部レール中の異物をいち早く感知し、シャッターの走行を止めるトルクリミッターを装備



## 黒崎播磨株式会社

景観材事業部シャッターグループ

住 所 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 15-6

TEL (03) 3669-0791 FAX (03) 5645-7324

大阪事務所 〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-11-7

TEL (06) 6441-9355 FAX (06) 6459-3247

ホームページ <http://www.krosaki.co.jp/>

# オーバードアークのコンゴ

機能美と温もりのあるデザインの出会い  
コンゴのバードシリーズ



## レイバード (スチール素材)

温もりのあるクラシカルなパネルフェイスが  
街並みにひととき映えます。OP:飾り窓付き



## アルバード (アルミ素材)

建物と美しく一体化したフラットな面が、  
ガレージフェイスをスマートに演出します。



## モクバード (天然木素材)

高級家具を思わせるその風貌が独自の  
温もりとくつろぎ感を与えます。



街並みに美しく映える  
ガレージバード  
アー

OP:飾り窓付き

ガレージも玄関同様、住む人の個性や品性をあらわします。  
ガレージドアークの素材選びひとつで、お住まいの雰囲気は大きく変わります。  
街並みに映えるガレージドアークを、コンゴの住宅用ガレージドアーク「バード  
シリーズ」でぜひ実現してください。



ISO認証

<http://www.kongo.net/>  
Eメール [kongo@kongo.net](mailto:kongo@kongo.net)



## 金剛産業株式会社

住宅建材部 〒102-0075 東京都千代田区三番町28 Tel. 03 (3512) 0807 (代)

本 社 〒102-0075 東京都千代田区三番町28 Tel. 03 (3512) 0800 (代)

札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・高松・福岡



## シンプルだけど雄弁で頼もしいガレージ。

見て楽しく見せて嬉しい。人も車も住まいも喜ぶアメリカンテイストのガレージドア。



静かでスピーディな動作性が特長のオーバーヘッドドア。二重の安全機能を備え、稼働範囲の広いリモコンで操作性も向上。突然の故障や事故にもFTS（24時間フルタイムサービス）で迅速に対応。

※天然木使用の木製ガレージもご用意しております。

速くて静かなアメリカン・スタンダード。デザインにも機能にもこだわりました。

**Candy**  
Garage Door

三和シャッター工業株式会社 〒163-0478 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル52階 ☎03-3346-3011 (お客様相談センター) ホームページ <http://www.sanwa-ss.co.jp/>

## 住友金属

### 地球環境対応型鋼板



### 住友金属工業株式会社

お問い合わせ先

〒104-6111 東京都中央区晴海1-18-11(トリトンスクエア)  
薄板営業部 TEL:03-4416-6333 FAX:03-4416-6359

〒541-0041 大阪市中央区北浜4-5-3(住友ビル)  
大阪薄板営業部 TEL:06-6220-5590 FAX:06-6220-5970

### 住友の環境対応型薄板製品シリーズ

#### クロムフリー表面処理鋼板

電気亜鉛めっき鋼板

#### スミジंकNEOコートT1

##### ■特長

1. 導電性と耐食性のバランスに優れた性能を有しています。
2. 耐かじり性に優れており、金型寿命を向上させます。

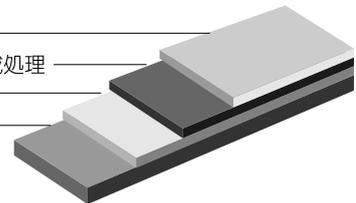
##### 被膜構成

有機被膜

クロムフリー化成処理

電気亜鉛めっき

鋼板



溶融亜鉛めっき鋼板

#### タフジंकNEOコートK

##### ■特長

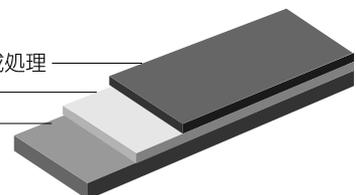
1. クロムを全く含まない特殊樹脂による新化成処理製品です。
2. 従来のクロメート処理表面処理鋼板と同等の性能を有しています。

##### 被膜構成

クロムフリー化成処理

溶融亜鉛めっき

鋼板





# ZAM

詳しくはホームページをご覧ください。  
[www.nisshin-steel.co.jp](http://www.nisshin-steel.co.jp)



## 日新製鋼は、ZAMを通じて お客様の無限の可能性を拡げていきます。

※ZAMとは、亜鉛-アルミニウム6%-マグネシウム3%のめっき層を持つ新しい溶融めっき鋼板です。



さまざまな形状が  
ご提供可能です。



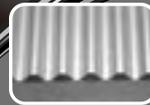
丸型鋼管



角型鋼管



溶接軽量形鋼



波板



ノンスリップメタル



一般構造材軽量形鋼



特殊形鋼



フレノッチ形鋼



シャッター

用途：薄板建材全般

### ZAMは、「性能」「コスト」「環境」の“トリプルメリット”。



ちょっと高くてもお買い得、ZAM。

**性能**

亜鉛めっき製品（当社製品名ベンタイトB）  
に比べて10~20倍の耐食性、亜鉛-5%  
アルミめっき製品（当社製品名ガルタイト）  
と比べても5~8倍の耐食性を誇ります。

**コスト**

腐食環境の厳しい用途に耐え得ることから、  
熱浸漬溶融亜鉛めっき（後めっき）やユニク  
ロめっきの代替としてご使用いただくこと  
ができ、お客様の工程省略が図れます。

**環境**

「少ないめっき付着量で高耐食性が得ら  
れる」、「長寿命化が図れる」という観点  
から、省資源対応の製品としての展開が  
期待されています。

●建築基準法第37条第2号認定取得 ●日本住宅性能表示基準に従って表示すべき劣化対策等級（構造躯体等）の特別評価方法認定取得 ●建築施工技術・技術審査証明書取得 ●建設技術審査証明書取得（土木系材料）

日新製鋼株式会社 〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL.03-3216-5166

お客様の商品開発・コストパフォーマンスをサポートする

## 新しい意匠鋼板

◆お客様のニーズ

コストダウン

高いデザイン性

脱塩ビ化

耐久性の向上

◆ご提案商品

TXハイカラー

外装用オレフィン鋼板

フロールポンド

◆特長・用途例

テクスチャー感を有する高意匠塗装鋼板  
〈用途例〉玄関ドア

非磁ビラミネート鋼板（エンボス・印刷柄ともに可能）  
〈用途例〉玄関ドア・シャッターケース

20年保証メンテナンスフリーのフッ素ラミネート鋼板  
〈用途例〉天窓枠材・住宅設備

※いずれの商品も、新日鉄の高耐食性新めっき鋼板「スーパーダイマ」を原板としてご採用できます。

日鉄建材工業株式会社

本社 〒135-0042 東京都江東区木場2-17-2 意匠鋼板事業部門 担当：高坂（功純）、林

TEL03 (3630) 2157 FAX03 (3630) 2249 <http://www.n-kenzai.co.jp>

**BX**

文化シャッター

# 快適なガレージライフを 演出する5つのスピリッツ!

## SPEEDY **速い!**

巻取り式電動シャッターと比べると約3倍の速さ、さらに接触音・振動を低減。

## SIMPLE **使いやすくシンプル!**

軽くて薄いカードリモコン(セレカード)なら、車から降りることなく手で操作が可能。

●リモコンスイッチ  
(セレカード)



## SAFETY **安全・安心!**

指はさみ防止と2重の障害物感知装置を装備した安全・安心設計。

**美しい**

## STYLISH

フラット面で構成されたアルミパネルは、これまでにない美しく、上品なフェイス・デザイン。

## SMALL SPACE

ヘッドルーム・サイドルームとも業界No.1の小さな納まりを実現。

**小さな納まり!**

美しいデザインと軽快な開閉が魅力のオーバースライディングドア  
住宅用に進化して、すっきりと新登場です。

住宅用オーバースライディングドア

**フラットピット****NEW**

文化シャッター株式会社 〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3 TEL.03(5844)7111 ホームページ <http://www.bunka-s.co.jp/>

# 上が見える。 安全が見える。

**新登場**

ゆがみの少ないクリアな上部視界。  
クリア(透明)バイザー採用ヘルメット



# M

ミドリ安全

次の安全へ、  
次の安心へ。

ミドリ安全の新しいヘルメットは、クリアバイザーを採用。上方視界が驚くほど広がります。歪み・ひずみもとても少なく、働く現場が求める良好な視界をお約束します。その他の特徴は●快適なアクティブベンチレーション設計●安心な後頭部保護形状●ジヤストフィット設計●独自の脱げ防止機構付。そしてグッドデザイン。信頼のヘルメット。



SC-12PCL



SC-11PCL (レインガード付)

お問合せはヘルメット統括部：Tel.03-3442-1641 まで

## 彼岸花とコスモス

彼岸花は、文字どおり秋の彼岸頃に咲くのでこの名前になっています。田舎道の脇に群生していたりしますが、町中でも空き地や家庭の庭等に見かけます。

真っ赤な色が火を連想させるので、子どもが取ってきて母親に「そんなもの取ってきたら家が火事になる」などとしかったりしますが、それは、彼岸花に毒（リコリン）があるので、子どもがそれに触らないようにとの親心によるものかもしれないといわれています。

別名をマンジュシャゲ（曼珠沙華）ともいいます。

もうひとつ、秋の花で欠かせないのがコスモスです。「秋桜」の字は、主に秋に咲き、花弁の形が桜に似ているところからきているようです。

（写真は、埼玉県日高市。撮影：三和シャッター工業 伊藤 俊美）



## JSDA会報 2004年・秋号

発行日：2004年10月10日 通巻第14号

発行者：社団法人 日本シャッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-3 フナトビル4F

tel.03-3288-1281 (代) / fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>